

課題解決型研究プログラム 統合研究プログラム

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 世界全体からアジア、そして我が国の市町村までを対象として、持続可能な社会実現のための研究に取り組み、その統合を目指されているという多元的なプログラムだと評価する。【年度】
- 土地利用および温室効果ガスや大気汚染物質排出量などの空間詳細情報、CO₂増加に伴う作物中の含有成分変化など新たな成果が期待以上に挙げられている。しかし、統合プログラムとして、どのようにこれらの成果を4つの統合に結び付けるのかが見えてこない。【年度】
- 途上国での研究やモデル化に関して、政策の立案とその実装のための Framework 作成などの具体的な対策の策定に向けて、如何に研究成果を Breakdown して活用していくのかなど、実装において実際に求められる要求・期待などへの対応について、ゴールとそれを達成するためのシナリオ、ロードマップなどが明確になると良いのではないかと。【見込み】

今後への期待など

- シナリオを明確にして、その環境などへの影響を明確にして欲しい。意識調査などの結果をもとに、環境政策への提言を期待する。【年度】【見込み】
- SDGs への対応は SDG13 を基本に関係付けているのは良い。ただ、Future Earth や Society 5.0 との連動や社会実装について示されておらず、お互いの関係や連携が明確になることを期待する。特に企業との連携について進展することを期待する。【見込み】
- 統合プログラムの重要な観点は、社会実装できるように統合することで、積極的に研究成果を統合し、持続可能な社会実現に向けた政策への貢献を期待する。【見込み】

主要意見に対する国環研の考え方

- ① これまでは、PJ1 と PJ2 におけるモデル研究による成果と、PJ3 による制度、社会研究の成果を個別に提示してきましたが、PJ1、PJ2 と PJ3 のそれぞれの出力の関連を明示して説明するようにいたします。
- ② 途上国を対象とした研究では、現地の研究者との連携を通じて政策決定者に働きかけていき、ご指摘のようなロードマップへと発展させたいと考えています。
- ③ 将来像・シナリオの明確化については、社会経済の状況から環境負荷まで一貫したシナリオを明確にしていきたいと考えています。なお、意識調査の結果も踏まえ、どのようにコミュニケーションをとるかも示していきたいと思えます。
- ④ 社会との連携については、成果を発信するだけでなく、企業や学生など様々なステークホルダーの意見も反映できるようなシナリオの作成を検討しています。成果が複雑にならないように留意しつつ分析を進めてまいります。
- ⑤ 上記を踏まえ、研究成果を統合し、持続可能な社会の実現に向けた政策や取り組みに貢献できるように努力してまいります。